



市長からの手紙

75 ロボットの時代に

4月6日付の新聞に、人工知能(AI)に関する気になる記事が2つほど掲載されていました。

1つは英国発の「ロボット兵器の開発競争」と題するコラム記事で、要旨は、「人工知能(AI)を用いる兵器の研究センターを開設したある国の科学技術機関に対し、世界の代表的なロボット工学の研究者五十数人が、ロボット兵器の開発につながる恐れがあるとして、協力の停止を表明した」という内容でした。人の操作に頼らない自律型兵器は、数か国が開発中で、ある国の防衛産業がすでに開発したロボットは、人の操作を介さず標的を識別し追尾して破壊する能力を持つということです。

もう1つの記事は連載もので、IT(情報技術)大手4社の売上高が急膨張していて、新たな独占の形が生まれつつあるという内容です。

最近頻繁にマスコミに登場する自動運転自動車をはじめ、向こう10年から15年のうちには、現在ある人間の仕事の6割(不正確です)が機械に取って代わられるという報道もあります。

現在、日本は少子化・高齢化・人口減少という大きな社会的課題を抱えています。AIを駆使した機械の発達、日本の課題を解決する1つの道を示唆しているという考えもあります。すなわち、介護をはじめ労働力の不足はAIを用いたロボット・機械で補うという方法です。現在のAIでは、人の感情面での行動や反応の模倣はできませんが、いずれこの領域でもAIが人と同じように機能できる可能性はありそうです。

この考えを極端に進めると、労働力としての人間はいらなくなるという状況から、そもそも人間は不要であるという状況にたどり着いてしまうのではないのでしょうか。軍隊もロボットで構成して、有事の場合はロボットが出動するような世界は、既視感があります。映画で大ヒットした「ターミネーター」の世界が現実になりそうな気がしてきます。ロボットの活躍が現実になった今、ロボットは人間のためにあるというルールを確立しておく必要があると思います。

川越市長 川合善明

ともに支え合ひ、暮らしつづくまち2

障害者福祉課 ☎224-5785

Fax 225-3033

聴覚障害について

聴覚障害は、その原因(生まれつきか、病気や事故によるものか)や聞こえ方の程度(全く聞こえない、聞こえにくいなど)が、個人によりさまざまです。

コミュニケーションを取る際は、筆談や手話を活用しましょう。

また、話をする場合には次のポイントに気をつけてみてください。

■ ゆっくり、はっきりと話す

大声で話すとは逆に聞き取りにくくなる場合があります。普通の声でゆっくり、はっきりと言葉を区切りながら話しましょう。

■ マスクを外しましょう

話している相手の口の動きを読み取って話の内容を補っている方もいるので、話す時にはマスクを外しましょう。

■ 肢体不自由について

病気やけがなどによって体に障害があり、立つ・座る・歩く・物を持ち運ぶなどの日常生活が困難で、車いすやつえ、義足などが必要な方がいます。



サポートする時は、まず声を掛け、相手がどのような支援を必要としているのか確認しましょう。また、必要に応じて周囲の協力を求めましょう。

■ 障害者用駐車スペースの適正利用を

公共施設や商業施設の駐車場には、通常の駐車スペースよりも幅の広い「障害者用駐車スペース」が設けられていることがあります。

これは、車いすを使用している方や、つえを使っている方などの乗降に必要な幅を確保した駐車スペースです。必要のない方は使用しないようにしましょう。

